

「剛志学府」だより

第11号

R3.12.15

— 令和3年度 第3回境西中学校学校運営協議会から —

令和3年11月19日(金)に、令和3年度境西中学校学校運営協議会が開催されました。今年度初めての顔合わせとなりました。

1. あいさつ 石原会長 萩原副会長

石原会長からは、「コロナ禍の状況が続く、運営協議会で意見は出るのですが、実行できず、ここ数年ほとんど何もできていません。この剛志学府では、食に関する事をテーマに、取り組んでおります。公民館事業として、食育をテーマにした映画の上映をしたり、小学生対象にお弁当教室を開き、中学生にお手伝いに来てもらったりしていました。また、学府ののぼり旗を作り、地域に5本程たっております。でも少なく余り目立っていません。時々「あれは何だい？」と質問されますが、その時は「地域と学校が仲良く、地域が子供を気にかけてくれたらいいんだよ。」と話しています。

こういったことは、地域の住民がスポーツなどで触れ合ったり、協力し合ってお互いを思いやるのがまず必要です。そこから高齢者に対する手助け…例えば災害の時に、中学生が高齢者をどう助けてくれるのかにつながっていきます。このことを根幹にして、この会では協議をしていってほしいと思います。また、境の歴史に興味がある若い人は少ないです。昔の住民の思い、その思いから地域が発展した事を理解し、地域の風土を継続して行って欲しいと思います。子供の頃の体験を身に付けてこそ、風土につながると思います。」とのあいさつをいただきました。

また、萩原副会長からは、「石原会長のおっしゃる通りで、災害の時など、中学生が地域の手助けができるといいと思います。それには「剛志学府」を地域で盛り上げていかなければなりません。

先日、剛志小の「ふるさと資料室」に伺いました。剛志小だからこそ出来上がったものです。歴史を知ることは教育に大切です。住民の皆さんが立ち寄れる場所づくりをこれからも進めていってほしいです。」とのあいさつをいただきました。



2. 剛志学府としての協議について

(1) 学校・家庭・地域が目指す子ども像(目標)について

剛志地区 目指す子ども像:自ら考え、判断し、決定し、行動する子ども

剛志地区 理想の地域像:「自律」した大人が暮らすまち

石原会長)この目標が設定されてから、2年目が終わった頃だと思います。剛志地区の子ども達は、他地区に比べると学力は高くまじめです。しかし、自己肯定感が低く、中学を卒業し、他地域の人と交わった時に心配です。

結城校長)生活アンケートからも、全国と比べると、自己肯定感が低いのが分かりますが、これは自分に厳しい傾向があるからではないかと考えます。

石原会長)これはこの地区の子ども達の課題であり、どう補ってやれるか考える必要があると思います。

結城校長)理想の地域像にあります、「自律」した大人が暮らすまちという目標について、委員の皆さんで共有できるといいのですが……。

子ども達は挨拶をして地域の人と関わっています。もし災害が起きたら、地域のために自分から進んで動きます。お互いを思いやれる「自律」した大人が暮らすまちであれば、社会に出たときに、またこの剛志地区に住みたいと思えるでしょう。学校でも目標とする地域像を意識していきたいので、ぜひこの会で共有したいです。

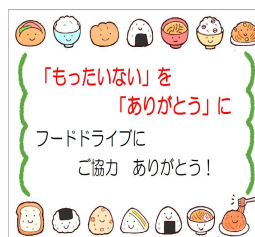
(2) 具体的な活動(フードドライブの報告)

根岸公民館館長)『「もったいない」を「ありがとう」に』をテーマに、自宅にある食べきれない食品などを、必要としている人の支援に役立ててもらうために、地域と学校が一体となって、初めて取り組みました。子ども達が食品ロスへの関心を持ち、削減につなげることで、助け合いの心を育てること、小さな行動が社会の役に立つことを実体験してもらい、自己有用感につながることを目的としました。寄付の状況は、剛志小、西中学校、公民館の合計、372個(段ボール14箱分)となり、寄付品を引き渡したフードバンク団体から、約250名の方々が支援品を受け取り、「ありがとうございます」といったメッセージが寄せられたとのことです。次にこの取り組みの感想と課題です。

- ① 感想
 - ・中学生の協力が大きく、学校と地域の力を感じた。教員からの物品がほとんどで、家庭からの提供品が少なく残念であった。SDGsについて学べる良い機会であった。
 - ・「公民館だより」だけでは周知が行き届かないように感じた。
 - ・緊急事態宣言下であったため、不要不急の外出自粛中であったせいか、来校される保護者が少なかった。
- ② 課題
 - ・食品の仕分け作業を通して、賞味期限の確認を通して、食への関心を高めるきっかけになると思うので、次回は児童・生徒にも携わってもらえると良い。
 - ・昨今では、物を持ちすぎない人が多くなり、それほど不要な食品自体があまりないのではないかな。
 - ・地域の方にSDGsについて学ぶ機会の設定があってもよいのではないかな。
 - ・自分たちの寄付品がどのように活かされ、効果があったか、児童・生徒に伝えていくことが、より関心を持ってもらうために必要ではないかな。

石原会長)このフードドライブ事業は、テスト的に行いました。今後とも続けられたらと思います。公民館広報をあまり見していない人がいるようです。

地域にあまり関心がないことは残念ですので、ここを改革していくことが必要だと思います。皆さんが満足できる地域を目指すため、問題定義し、解決していきたいです。



(3) 剛志学府の今後について

剛志学府の今後について、ご意見をお願いします。

永井委員) 私はこの地区の出身です。他県の高校に進学したときは心細く、親に話を聞いてもらって、少しずつ高校生活に慣れていきました。家族との絆が深まって自信もつきました。自律した大人になるには、人との助け合いが大切だと思います。

茂木委員) フードドライブについてです。取り組み時期を考慮すると思います。お歳暮やお中元の時期が過ぎた頃だと、同じものがいくつか家庭にあって、寄付しやすくなると思います。

天田委員) 地域の困りごとがあれば、どんなことでも区長に連絡をいただけたらと思います。この事案はどこへ報告すればいいか、すぐ判断できます。千葉県八街市で小学生が巻き込まれた交通事故がありました。小此木地区は境地区で一番に、路側帯をつけられました。道路に大きな水たまりができて、樹木が道をふさいでいるなど、どんなことでも区長に連絡いただければと思います。

尾高委員) タブレット端末の導入に際し先生方の御苦労がよく分かりました。今後、民生委員のサポートに、タブレット端末の使い方を聞きにくる子どもが増えるかもしれません。フードドライブに協力したいと思います。

剛志小橋本教頭) 剛志小の高学年では、今年度から教科担任制を導入しました。理科や音楽専科とは別に、5.6年の両クラスの担任が、専門性を生かして教科を分担し、両方のクラスで指導しています。教科を2クラス持つことで、授業内容を改善することができ学習効果が上がっています。2クラスの児童と関わるので、生徒指導の面でも共通理解を図ることができ、先生方の反応も良いです。また、ふるさと資料室を地域の方に向け、第3木曜日(月1回)開室しております。午前10時～正午と、午後1時半～午後3時半までです。ぜひ来てください。

佐藤委員) 西中で教員を退職した後、人権擁護委員を務めております。人権教室では、「いじめを見たら、いじめを体験したら、大人に知らせよう。もっと大人を頼ろう。」と話しております。自分の周りには話を聞いてくれる人がいる、もっと頼っていいんだよと、大人が伝えるべきだと思います。私が西中に勤務していた時の話ですが、下校指導中、小学生の児童が中学校教師の私にも挨拶をし、話しかけてくれました。剛志地区は、温かい地域性がある地区だなと感じております。

須藤委員) 『剛志地区 理想の地域像』についてですが、地域の合言葉となるように、回覧板等で意図を説明するなどしたらどうでしょうか。地域にそぐわないという意見があれば、変えてもよいのではないのでしょうか。『剛志の歌』もそうですが、何事も長い年月をかけて浸透していくものだと思うので、長い目で見ていく必要もあると思います。

並木委員) タブレット端末についてです。子どもはとても馴染んでいます。定期テスト前に、端末にテスト対策の問題をあげていただいたようで、それを家で活用できたのがよかったです。フードドライブは良い活動であると思います。これからも続けていけば、地域の方にも目が向くのではないかと思います。



根岸公民館館長)発信力は地域力につながります。コロナ禍となってから、公民館だよりは事業案内ができず、寂しいものになっていました。しかし、2学期以降、学校は発想を転換し、違う視点で出来ることを考え行動をされています。公民館も見習わなければならないと思います。剛志学府は規模がコンパクトで、もともと身近で連携できています。公民館にも気軽に声をかけていただき、どんどん立ち寄っていただけたらと思います。



結城校長)「地域運動部活動推進事業」についてお知らせいたします。令和5年度以降の、休日の部活動の段階的な地域移行に向けて現在進められております。生徒や地域の方にとって、望ましい持続可能な運動部活動の実現を考えております。勝ち負けを目標にするのか、レクリエーション目的とするのか、部活動によっては考えが異なってくるかもしれません。指導してくださる方への報酬も検討しなければなりません。今、こういった動きがあることを知っていてほしいと思います。

2年前の台風19号の時、境東小が避難所になりました。その時、中学生が積極的に手伝ってくれていました。生徒達には、社会の一員として、何ができるのか、考えさせていきたいと思っています。そして、「この地域は温かいな。自分を認めてくれるな。」という経験の積み重ねが、将来この地域に戻りたいなという考えにつながるのではないのでしょうか。12月に「あいさつ運動」を予定しております。西中、剛志小の正門で行います。区長さんも一緒にやってもらえたらありがたいです。小さなことを積み重ねていきたいと思っています。お力添えをお願いいたします。

天田委員)剛志地区には、地域のために動いてくださる方がたくさんいます。通学路の見守りに、毎日立ってくれている方もいます。顔なじみの人が増えれば、地域は安全になっていきます。

石原会長)野球選手の大谷翔平が高校生の時に書いた、目標達成シートを学校で配布してほしいです。(⇒野球部はすでに配布し、活用しているとのこと)
また、昔の剛志地区の災害に関する資料があれば、ふるさと資料室に展示したいので、良かったらご寄付いただけたらと思います。

